

# パートナーシップによる「水の都・三島」の水辺・自然環境再生活動

## - 水の都・三島の原風景・原体験再生への挑戦 -

三島ゆうすい会 副会長 渡辺 豊博

### 水辺自然環境が消滅の危機に

静岡県三島市は、古くより「水の都」と呼ばれ、市内各所で富士の湧水が噴出して素晴らしい水辺自然環境を有していた。しかし、昭和30年代以降の上流地域での産業活動の活発化によって地下水が減少し、市内の各河川や湧水池には、あの豊かな湧水は消えてしまった。

この湧水減少の時代の推移の中で、水に愛着と拘りの心を強く持っていた三島市民は、川への思いや慈しみの心を忘れ、家庭雑排水のタレ流しやゴミの不法投棄等を行う、川の環境悪化の最大の原因者・加害者に成り下がり、昔の川が消滅の危機に瀕し始めていた。

### 動き出した市民運動

そこで、湧水の枯渇化が進み、地域の水辺自然環境の悪化が進行する「水の都・三島」の地域資源と原風景・原体験を再生・復活すべく、水を愛し、にこだわりの気持ちが強い人々が集まり、平成3年9月26日に「三島ゆうすい会」が設立された。故郷・三島の環境悪化の進行による危機感と切迫感が、市民運動が胎動する切っ掛けとなった。名誉顧問には、三島出身の詩人の大岡信さんや女優の富士真奈美さんをお願いし、現在、会員数は約400名となっている。

本会の事業展開の最大の特徴は、地域を構成している市民・行政・企業のパートナーシップによる環境改善活動を目指す、イギリスで始まった「グラウンドワークトラスト」の考え方や手法を全国に先立ち先駆的に活用したことである。

また、汚れた川の清掃活動や雨水浸透ますの設置活動など実践的で具体的な活動に加え、三者の仲介役・コ・ディネイター役として専門性を発揮して、それぞれの長所を最大限に引き出

し、相互の課題を調整する役割を担ったことにある。

そのための仲介役的市民組織として、平成4年9月に新たに市内の8市民団体（現在は18団体）が協力して、グラウンドワーク三島実行委員会（現・特定非営利活動法人グラウンドワーク三島）を組織した。このことにより、各種市民団体が現在までにそれぞれに実践を重ねてきたまちづくり計画や地域の環境改善計画が調整され、相互に連携が取れた創造力にあふれた魅力的なまちづくりが推進できる、市民活動団体のネットワーク（相互補完システム）が確立された。

### 蘇った源兵衛川

皆さんは、7年前までごみだらけだった川が、ホタル舞う美しき川に、変身したと言ったら信じられますか。実際に、三島市を縦貫する農業用水路の源兵衛川が、三島ゆうすい会が中心となった市民・行政・企業との連携と協力関係によって、見事に昔の美しい水辺自然環境が蘇ったのだ。今ではホタルが乱舞して、カワセミが飛び交い、ホトケドジョウやハヤが泳ぎ回り、子供達たちが裸足で水遊び、魚取りに興じる姿が当たり前風景になっている。



写真1 水の都、三島の原体験が再生、源兵衛川

## パートナーシップによる「水の都・三島」の水辺・自然環境再生活動

- 水の都・三島の原風景・原体験再生への挑戦 -

三島ゆうすい会 副会長 渡辺 豊博

「市民」は、川づくりに参加して自分たちの創意工夫によって源兵衛川の整備計画を提案し、昔のような自然度の高い川づくり計画や川の中を歩ける「水の散歩道」を発意した。また、ゴミが散乱していた川に入り、3年間にわたり月2回づつ、地道な河川清掃を継続することで、自分達の汗と具体的行動によって、美しい水辺自然環境を取り戻した。「行政」は、市民提案を具現化する物づくりを推進した。川づくりプロセスの中に、自然観察会や勉強会の開催など住民参加や情報提供の機会を増やすことによって、地域住民の思い入れとアイデアを取り込んだ、魂の入った物づくりを進めた。行政の独り善がりの「公共事業」から、市民との連携を前提とした地域総参加型の「公協事業・交響事業」への行政施策の転換を進めた。「企業」は、市民自身の自助努力を評価し、湧水の補給用水として水質的に問題のない冷却水を、湧水が減少する冬場に供給してくれたことにより、一年を通した生態系の維持が可能となる水辺自然環境が復活された。

本会がこの三者の橋渡し役として、それぞれの立場と役割を尊重しながら、連携するための課題を調整する仲介役としての役割を担った。

現在、周辺住民で組織された河川愛護団体「源兵衛川を愛する会」が、平成7年に設立され、継続的な河川清掃を行っており、川の管理主体者が中郷用水土地改良区から市民団体に引き継がれている。

いままでは、行政が何でもやってしまい、結局は市民の主体性や創造性を奪ってしまう行政主体の物づくりが多すぎたのではないか。今後は、今まで以上に計画づくりへの市民参加を前提とした物づくりへの志向とプロセスが必要とされ、本会が、三者の有機的結合を図るための

黒子として奔走したことが、市民主体の水辺空間の創造と維持管理体制が確立したキーポイントといえる。

## 多様で多彩な水の運動を展開

その他にも本会では、地下水保全活動や河川環境の維持管理、水環境保全への意識啓発・実践活動、富士山の水資源保護活動など、多様で多彩な創造力に富んだ、様々な水の運動を積極的に推進している。この結果、三島市民の水への関心が高まり、その波及効果として現在では、三島商工会議所との連携による水を活かしたまちづくり事業「街中がせせらぎ推進事業」の具現化に向けた牽引車の役割も担っている。

## 水の復活事業の推進

水資源を守り育てるための地下水涵養の促進活動、節水運動の推進

## 1) 三島市内での「雨水浸透施設・雨水貯留タンク設置補助制度」の実現

有限なる資源である地下水を守り、育てることを啓発するために、先進地熊本県より雨水浸透ますを10個購入して、上流地域（御殿場市・裾野市・長泉町・三島市内）に自分達で設置した。この運動により、5年前から三島市では補助制度が制定され、一軒5万円までは補助金が出ることになり、現在約500基が設置されている。

## 2) 上流市町内公共施設及び地下水利用企業での雨水浸透施設の設置普及活動

上流企業への工場内への雨水浸透施設の設置や浸透舗装の施工等を依頼し、2企業において協力を得て実際に工事が実施された。

### 3) 「雨水貯留タンク（天水尊）」「節水コマ」設置普及活動

ドラムカンや貯水タンク等を活用して雨水を溜める天水尊を市内各所に設置した。昔風の天水桶や学校への設置による子供達への水を大切にする心の環境教育の教材として活用する。

### 4) 水の都・三島再生への処方箋「地下水保全提言書」の作成

地下水保全への解決への処方箋、理論的根拠を策定し、私たちの水の活動の長期的戦略、行動計画を策定した。

### 5) 行政（国・県・市等）への政策提言活動の実施

東富士演習場への巨大浸透ダムの建設、促進や国有林の森づくり応援団の結成等について、横浜防衛庁や静岡森林管理署への政策提言を進めた。

### 水の活用事業の推進

水の生活文化を守り、地域づくりに活かすため事業の推進

### 1) 市内を代表する湧水河川「源兵衛川」「桜川」周辺の住民を組織化しての、定期的な河川清掃の展開

源兵衛川を愛する会、桜川を守る会が本会の投げ掛けにより発足し、毎月定期的な河川清掃活動を継続している。周辺住民の関心も高く、結成前と比較して美しい水辺環境が、市民自身の自助努力により維持管理されている。

### 2) 市内から絶滅した水中花・三島梅花藻の増殖基地「三島梅花藻の里」整備と市内河川、



写真2 雨水貯留タンク「天水尊」



写真3 三島梅花藻を湧水池に移植

### 湧水地への移植活動の実施

県の天然記念物であり三島の宝物、誇りであった三島梅花藻が湧水の減少とともに三島から

パートナーシップによる「水の都・三島」の水辺・自然環境再生活動

- 水の都・三島の原風景・原体験再生への挑戦 -

三島ゆうすい会 副会長 渡辺 豊博

消滅してしまった。そこで、柿田川みどりのトラストの協力をえて、この湧水地に移植し、増殖基地として整備した。現在、その他の河川や湧水地に移植し、白く可憐な水中花が咲き乱れ、原風景が蘇っている。

### 3) 古井戸の保存再生活動(「腰切不動井戸」)の実施

江戸時代から地域の宝物として大切にされていた由緒ある井戸が、時代の変化とともに地域から忘れ去られ、土砂やゴミが滞積し、死の井戸になっていた。そこで、本会により井戸の掘削を行い、手押しポンプの設置や釣瓶、四阿の建設など手作りの整備を進め、地域の潤いの場・憩いの場を復活した。

### 4) 水神さんを守る活動

昔、三島には2,000以上の井戸があったといわれ、その横には水神さんが安置されて地域の宝物として大事にされていた。しかし、井戸の消滅とともに邪魔扱いされ、忘れ去られ、壊れてしまった。そこで、歴史的に価値の高い水神さんを三島梅花藻の里に遷座して、保全管理している。

### 5) 湧水地の保全・泉トラスト活動の推進としての「雷井戸」買収と整備の実施

三島を代表する簡易水源の水源地(田町用水)であった雷井戸が売りにだされた。そこで、この土地を市民の力で保全すべく泉トラスト活動を推進し、本会役員3名によって買収し、今、手作りの周辺整備作業を進めている。

### 6) 昔の風景を再現する市内河川への手作り水車設置活動



写真4 泉トラストで守った雷井戸



写真5 遊水匠の会による水車の復元

古く三島は水車のあるまちであった。この原風景を復活すべく、昔から水車があった場所に当時と同じ水車を再生設置すべく、「遊水匠の会」を結成して手作り水車を3基(最大直径1.8m)造り、展示している。

### 7) 水辺花基金による植栽活動

「自分達のまちは自分達で演出を」を合言葉に、市民や企業に対して募金活動を行い、約10,000千円の基金と寄付金を集めた。この資金を活用することにより、苗木や肥料、プランタ - 等を購入して水辺、道路、公共施設等の美

化を進め、魅力ある素敵な環境整備を進めている。

#### 8) 飛鳥時代の水時計の復元、展示活動

水にこだわる本会の独創性にあふれた活動として、今から、約1,300年前の飛鳥時代(天智天皇)に使われていた「水時計(漏刻・ろうこく)」を復元する活動を進めている。6月10日の時の記念日に展示し、水の不思議さと楽しさを子供達に教育する教材とする。

#### 水に関わる学習機会及び情報の提供

会員や一般市民を対象に学習・啓発活動を実施し、各種情報を提供

#### 1) 水の勉強会、川の自然観察会、学校ピクト - プの推進等の実施

#### 2) ニュ - スレタ - 、ゆうすい新聞の発行

#### 3) ホ - ムペ - ジの運営

最新の活動情報を英文も含め国内外に発信しており、評判は良い。平成11年には新潟県上越市大手町小学校の児童がホ - ムペ - ジを通して本会の活動に関心を持ち、修学旅行で三島を訪問している。

#### 水のイベントの実施

市民の水環境保全に対する意識を高めるための水に関わるイベントを実施

#### 1) 俳句を通して水に親しむ「俳句&ト - ク」や水の映画祭、講演会などの開催

名誉顧問の富士真奈美さんや吉行和子さんを選者をお願いし、水・緑・蛍・富士山等を季語



写真6 水辺ゴミ拾いツアー

とした俳句を詠み、楽しむ会を催している。

#### 2) 「水辺ゴミ拾いツアー - 」の開催

水辺ゴミ拾いツアー - というエコツアー - を6年前から旅行業者と共催企画して、関東圏の人達約100名を募集している。市内河川のゴミ拾いをしてもらい、その後、会員との水談義による交流を図っている。

#### 富士山自然環境保全活動の推進

設立当初より、環境悪化(ゴミ・し尿、森林破壊、地下水の減少等)が進行し危機的状況にある富士山の自然環境を守る活動として、周辺市民団体のネットワーク化、世界遺産登録への運動、企業や行政との協働関係の構築に取り組んだ。

また、三島市、東京、大阪での富士山シンポジウム(光と陰・アバタとエクボシンポジウム等)の開催の実績をもとに、この活動は環境NPO「富士山クラブ」(平成10年発足)に引継がれ、全国規模のNPO運動として発展している。